谷澤淳三教授業績一覧

① 著書（1編）

1）『Bhartṛhari 著　Vākyapadīya 3-14 : Vṛttisamuddeśa 訳註研究(1)』（山喜房佛書林，1991年11月）［単著］

② 論文（25編）

1）「バルトリハリにおける upacārasattā 説」（『印度学仏教学研究』32-2，日本印度学仏教学会，1984年3月，140—141頁）［単著］

2）「バルトリハリにおける pratyakṣa」（『印度学仏教学研究』33-1，日本印度学仏教学会，1984年12月，48—50頁）［単著］

3）「インド文法学派における否定の意味論　Pāṇini-sūtra II-2-6 をめぐって」（『仏教文化』学術増刊号3，東京大学仏教青年会，1987年2月，69—91頁）［単著］

4）「Bhartṛhari における pravṛttinimitta」（『印度学仏教学研究』35-2，日本印度学仏教学会，1987年3月，41—43頁）［単著］

5）「jāti に関する一考察—Mahābhāṣya を中心として—」（『仏教学』22，仏教思想学会，1987年9月，45—59頁）［単著］

6）「インド哲学で説かれたうそつきパラドックスの議論—Bhartṛhari を中心に—」（『高崎直道博士還暦記念論集　インド学仏教学論集』，春秋社，1987年10月，155—164頁）［単著］

7）「インド文法学派における意味の問題—常住な意味と心像としての意味—」（『東方学』77，東方学会，1989年1月，1—11頁）［単著］

8）「意味の二要素—Bhartṛhari と Frege—」（『比較思想研究』17，比較思想学会，1991年1月，39—45頁）［単著］

9）「Pāṇinian Theory of Guṇasamudāya : Indian Cluster Theory」（『印度学仏教学研究』39-2，日本印度学仏教学会，1991年3月，6—10頁）［単著］

10）「同一性言明の意味論—Saṃkṣepaśārīraka を中心に—」（『前田専学博士還暦記念論集〈我〉の思想』，春秋社，1991年10月，463—473頁）［単著］

11）「Dravyas as Referents of Pronouns」（『印度学仏教学研究』41-2，日本印度学仏教学会，1993年3月，14—18頁）［単著］

12）「Advaitins' Theory of Lakṣaṇā and Pāṇinian Grammar」（『印度学仏教学研究』42-2，日本印度学仏教学会，1994年3月，17—21頁）［単著］

13）「Guṇavacana と指示—文法学派による哲学的考察—」（『印度学仏教学研究』43-2，日本印度学仏教学会，1995年3月，106—110頁）［単著］

14）「Perception in Indian Philosophy : Is Nirvikalpakaṃ Pratyakṣam Possible ?」（『南アジア研究』7，日本南アジア学会，1995年9月，1—13頁）［単著］

15）「tat kṛṣṇam と tasya kṛṣṇatvam—サンスクリット語翻訳に関する問題の一例—」

(『今西順吉教授還暦記念論集　インド思想と文化』，春秋社，1996年12月，173—183頁）［単著］

16）「upalakṣaṇa と「指示的用法」—Vākyapadīya を手がかりにして—」(『印度学仏教学研究』45-2，日本印度学仏教学会，1997年3月，67—72頁）［単著］

17）「アポーハ論は何を説いているのか」—（『人文科学論集<人間情報学科編>』32号，信州大学人文学部，1998年2月，3—19頁）［単著］

18）「パーニニ文法学派の固有名論と〈フレーゲのパズル〉」(『人文科学論集<人間情報学科編>』33号，信州大学人文学部，1999年2月，21—35頁）［単著］

19）「インド哲学における prāmāṇya の〈自ら〉説と〈他から〉説—現代哲学の観点から—」(『人文科学論集<人間情報学科編>』34号，信州大学人文学部，2000年3月，1—14頁）［単著］

20）「我々は実在を映し出すのか—インドと西洋の哲学—」(『江島惠教博士追悼論集　空と実在』，春秋社，2000年11月，227—242頁）［単著］

21）「Indian Grammarians' Theory of Proper Names」(*The Way to Liberation : Indological Studies in Japan*, vol.1, ed.by S.Mayeda in collaboration with Y.Matsunami, M.Tokunaga and H.Marui (Japanese Studies on South Asia No.3, The Japanese Association for South Asian Studies), Delhi : Manohar Publishers & Distributers, 2000, pp.249—261.［単著］

22）「シュリーハルシャ，もう一人の懐疑論者—真理の定義不可能性—」(『人文科学論集<人間情報学科編>』36号，信州大学人文学部，2002年3月，1—16頁）［単著］

23）「ダルマキールティに見る仏教論理学派の知覚論の直接実在論的傾向」(『インド哲学仏教学研究』9，東京大学大学院・文学部インド哲学仏教学研究室，2002年9月，17—28頁）［単著］

24）「Kriyā，行為，出来事—Patañjali と Bhartṛhari」(『人文科学論集<人間情報学科編>』38号，信州大学人文学部，2004年3月，27—42頁）［単著］

25）「論証の学としてのインド論理学—帰納法と演繹法—」(『人文科学論集<人間情報学科編>』41号，信州大学人文学部，2007年3月，233—252頁）［単著］（遺稿）

③　その他（6編）

1）「'Hinduism', Religions of the World」(Religions of the World, Bukkyo Dendo Kyokai, 1985, pp.191—212.）［英訳・単著］

2）「Studies in Indian Philosophy in Japan 1963—1987」(Acta Asiatica 57 (The Institute of Eastern Culture), 1989, pp.61—100.）［共著］

3）「インド哲学と哲学—ゴジラは存在しないから存在する？—」(『仏教文化』43，東京大学仏教青年会，2003年12月，38—72頁）［単著］

4）「インド哲学の挑戦」(『春秋』2005年4月号，春秋社，2005年4月，1—4頁）［単著］

5）「ヨーガ」「アスラ」「関係」など（『仏教・インド思想辞典』，春秋社，1987年）

6）「知識」「意味」「固有名」など（『岩波哲学・思想事典』，岩波書店，1998年）

④ 学会活動

1982年4月　日本印度学仏教学会会員
1984年4月　東方学会会員
　　比較思想学会会員
1986年4月　仏教思想学会委員
1989年4月　日本南アジア学会会員
1992年6月　日本印度学仏教学会賞

⑤ 学内業績

1994年4月　信州大学人文学部助教授として着任
1995年4月　信州大学修学指導部門分室委員（1996年3月まで）
　　人文学部広報委員（1996年3月まで）
1996年3月　人文学部広報委員長（1997年3月まで）
1996年4月　信州大学キャンパス問題調査研究会委員（1998年3月まで）
　　人文科学研究科小委員会委員（1997年3月まで）
1997年4月　人文学部カリキュラム委員会委員（1993年3月まで）
1997年10月　人文学部学務委員（1998年9月まで）
　　人文学部国際交流委員会委員（1998年9月まで）
1999年4月　人文科学研究科小委員会委員長（2000年3月まで）
1999年5月　人文学部予算委員（2000年4月まで）
2000年4月　人文科学研究科小委員会委員（2001年3月まで）
2000年5月　人文学部予算委員長（2001年4月まで）
2001年4月　人文学部学務委員（2001年9月まで）
　　人文学部カリキュラム委員会委員（2002年3月まで）
2002年5月　人文学部入試委員（2003年4月まで）
2002年6月　教授に昇任
2003年4月　人文学部カリキュラム委員長（2004年3月まで）
　　信州大学高等教育運営委員会委員（2004年3月まで）
　　教育内容改善W.Gメンバー（2004年3月まで）
　　人文学部教育検討委員会委員長（2004年3月まで）
　　共通教育科目各部門管理学部責任者（2004年3月まで）
　　医学部遺伝子解析倫理委員会委員
2004年4月　人文学部学務委員長
　　共通教育科目各部門管理学部責任者（2006年3月まで）
　　人文学部執行部メンバー